

工部大学校お雇い教師ヘンリー・ダイアー・コレクション展

加藤 詔 士

一・お雇い教師H・ダイアーのコレクション

1. 日本関係資料の展覧会

(一)

ヘンリー・ダイアー・コレクションと呼ばれる日本関係資料が、スコットランドにある。お雇い教師ヘンリー・ダイアー (Henry Dyer, 1848—1918) の収集になる資料であって、おもに書冊、美術工芸品、写真、絵葉書、楽器類から成っている。ダイアーは明治六(一八七三)年から十五(一八八二)年まで、工部省のお雇い教師として滞日し、工部大学校(東京大学工学研究科の前身)の都検として日本における工学専門教育の組織化を進展させたことがあるし、郷里のグラスゴウ(スコットランド)に帰ってからも日本への関心は衰えず、日本研究あるいは帝国財務及工業通信員などを通して、日英交流の推進に関与しつづけていた^①ので、そのようなかたで形成された資料群である。

工部大学校お雇い教師ヘンリー・ダイアー・コレクション展

もつとも、ダイアー・コレクションといっても、一括して保管されているわけではない。『英国アーカイブズ総覧』の最新版(二〇〇二)では、エディンバラ市中央図書館の美術図書室に「日本の水彩画、摺物、写真、書冊からなるダイアー・コレクション」がある^②とだけ紹介されている^③けれども、実際は同館だけにどまらな^④い。筆者は、これまでに、エディンバラ市中央図書館を含めて、スコットランドのグラスゴウおよびエディンバラにある五つの資料群を調査したことがある^⑤。ダイアーの収集品はいくつかに分割され、継承されているのである。

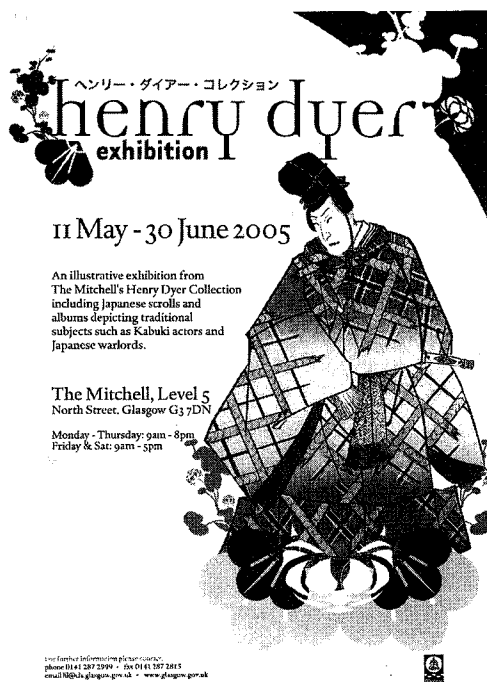
(二)

そのダイアーが収集した日本関係資料の展覧会が、二〇〇五(平成十七)年五月十一日から六月三十日まで開かれた。ただし、里帰り展ではない。ダイアーの郷里グラスゴウの市立ミッチェル図書館(Mitchell Library)で、同館の藏品から逸品を選んで展覧に供されたのである。ダイアーの死後、遺族から同館に寄贈された和本、巻

物、軸物などといった諸品である。

同展覧会のポスターの見出しには、日本語と英語で、「ヘンリー・ダイアー・コレクション、henry dyer exhibition」とある。薄黄色と朱色を基調にした品格の保たれたポスターであって、これに三世歌川豊国の芝居役者絵（香蝶楼豊国画「六玉川景事」^{けいじ}）が大きく配されているから、観覧者の関心を引きつけたにちがいない。

図1. 「ヘンリー・ダイアー・コレクション展」のポスター



もともと、展覧会といっても、それほど大掛りではない。ミッチェル図書館五階のフロアの一角に、展示パネル七枚（ポスター一枚を含む）および陳列ケース九台を配置しただけの、こじんまりした展覧会であった。図録は刊行されていない。

2. 「二〇〇五年日・EU市民交流年」における展覧会

ヘンリー・ダイアー・コレクション展は、「二〇〇五年日・EU市民交流年（2005 EU-Japan Year of People-to-People Exchanges）」の一環として企画され開かれた。日本とEU（ヨーロッパ連合）加盟二十五カ国との相互理解ならびに長期的な交流の促進を期して企画されたもので、この一年間に教育、科学技術、美術、演劇、舞踏、映画、写真、政治、スポーツ、地域貢献など幅広い分野において、のべ一九〇〇件を超える多彩なイベントが開催された。日本では約四五〇件、EU諸国では約一四五〇件という内訳である。

EU諸国で開かれた約一四五〇件のイベントのうち、英国では約二二〇件が開催された。そのうち、本ヘンリー・ダイアー・コレクション展は、グラスゴウ市の主催で開催された。

グラスゴウでは、同展のほかにも、さまざまな交流イベントが開かれた。「ひな祭」「欧日対話」「無限響和太鼓バンド」「日本の祭」「太鼓物語」「寿司サンデー」「映画上演会」などという名称のイベントであって、計十五件^①を数える。

スコットランド全体では、グラスゴウのほかに、エディンバラ、アーガイル、アバディーン、ダンディ、インバネス、セント・アンドリュース、パース、ファイフにおいてのべ六一件にのぼるイベントが開かれ、日本・スコットランド間の絆と交流の広がりが実感された。あわせて、今後も一段と緊密な協力と友好関係が進展していくことが期待された。

スコットランドにおける交流イベント六一件のなかには、ヘンリ

表1. グラスゴウにおける日本との交流イベント

期間	催物	会場	開催地	主催者
2月18日	開会式 Opening Ceremony in Glasgow	グラスゴウ大学	グラスゴウ	エディンバラ日本国総領事館, グラスゴウ市
2月18日 ～3月11日	ジャパニーズ・キス: 第6回現代日本映画祭 Japanese Kiss: The 6th Season of Contemporary Japanese Films	グラスゴウ大学	グラスゴウ	グラスゴウ大学欧日社会科学研究所
2月26日	ひな祭 Hina Matsuri	ウェリントン教会	グラスゴウ	グラスゴウ日本祭
3月2日	欧日対話 Europe-Japan Dialogue	グラスゴウ大学ビジネス・スクール	グラスゴウ	グラスゴウ大学欧日社会科学研究所
4月8日 ～9日	無限響和太鼓バンド Mugenkyo Taiko Drummers	クイーンズホール (エディンバラ) トラムウェイ (グラスゴウ)	エディンバラ グラスゴウ	無限響和太鼓バンド
4月11日 ～6月30日	ヘンリー・ダイアー展 Henry Dyer Exhibition	ミッチェル図書館	グラスゴウ	グラスゴウ市
6月8日	欧日対話 Europe-Japan Dialogue	グラスゴウ大学ビジネス・スクール	グラスゴウ	グラスゴウ大学欧日社会科学研究所
6月11日	日本の祭 Japanese Matsuri	ウェリントン教会	グラスゴウ	グラスゴウ日本祭
7月6日 ～8日	太鼓物語 Taiko Tales	パーティック市公会堂 (グラスゴウ) カルディ・バリー・センター (チェスター)	グラスゴウ チェスター	太鼓セラピー
8月30日	ダイアーと明治日本: 日本近代化における技師・教師としてのダイアー Dyer and Meiji Japan, an Engineer and Teacher in the Making of Modern Japan	ミッチェル図書館	グラスゴウ	グラスゴウ市 エディンバラ日本国総領事館
9月9日 ～13日	アビーフィールド国際会議 The Abbeyfield International Tri-annual Convention	ホリデーイン・ホテル	グラスゴウ	アビーフィールド・インターナショナル
10月30日	寿司サンデー Sushi Sunday	グラスゴウ大学	グラスゴウ	ハセガワキヨヒコ
11月5日	欧日対話 Europe-Japan Dialogue "Fear and Trembling? Difficulties in Cross-Cultural Communication in the Workplace: Japanese Companies in Britain"	グラスゴウ大学	グラスゴウ	グラスゴウ大学欧日社会科学研究所
11月9日	欧日対話 Europe-Japan Dialogue	グラスゴウ大学ビジネス・スクール	グラスゴウ	グラスゴウ大学欧日社会科学研究所
12月5日	日本の第二次世界大戦経験: 60周年記念映画上演会 Japanese Experiences of WWII: 60th Anniversary Film Show	グラスゴウ・フィルム・シアター	グラスゴウ	グラスゴウ大学日本協会

表2. スコットランドにおける明治日本との交流イベント

期間	催物	会場	開催地	主催者
8月30日	ダイアーと明治日本—日本近代化における技師・教師としてのダイアー Dyer and Meiji Japan, an Engineer and Teacher in the Making of Modern Japan	ミッチェル図書館	グラスゴウ	グラスゴウ市 スコットランド実行委員会 エディンバラ日本国総領事館
9月1日	明治日本とアバディーン—アバディーンの群像、グラヴァーその他の人びと Meiji Japan and Aberdeen, Glover and the Other Aberdonians	ロバート・ゴードン大学 ビジネス・スクール	アバディーン	ロバート・ゴードン大学
9月6日	日本とスコットランド—歴史からの教訓 Japan and Scotland, a Lesson from History	UHI ミレニアム・イン ステイチュート	インバネス	UHI ミレニアム・イン ステイチュート
9月7日	アイヌ民族と英国（スコットランド）人 The Ainu and British (Scottish) People	パース美術・博物館	パース	パース市
9月8日	エディンバラと明治日本 Edinburgh and Meiji Japan	バルモラル・ホテル	エディンバラ	エディンバラ・ロータリー・クラブ
10月28日 ～11月27日	イサベラ・バードの足跡をたどる—タイムトラベルによる冒険 In the footsteps of Isabella Bird: Adventures in Time Travel	スコットランド国立図書館	エディンバラ	スコットランド国立図書館

「ダイアー・コレクション展と同じように、明治日本との交流に関連する左記のような催し⑤も含まれている。

①「ダイアーと明治日本—日本近代化における技師・教師としてのダイアー」

②「明治日本とアバディーン—アバディーンの群像、グラヴァーその他の人びと」

③「日本とスコットランド—歴史からの教訓」

④「アイヌ民族と英国（スコットランド）人」

⑤「エディンバラと明治日本」

⑥「イサベラ・バードの足跡をたどる—タイムトラベルによる冒険」

①②③④⑤は講演会、⑥は写真展である。それぞれの主催者は、順に、グラスゴウ市およびエディンバラ日本国総領事館、アバディーンのロバート・ゴードン大学、インバネスのUHI ミレニアム・インステイチュート、パース市、エディンバラ・ロータリー・クラブ、スコットランド国立図書館であった。

各地で多彩な主催団体が参加して、日本・スコットランド間の交流が促進され裾野が広がられたのである⑥。

二. ミッチェル図書館の「ダイアー遺贈品」⑦

1. 図書・冊子類

ミッチェル図書館はグラスゴウ最大の公立参考図書館であ

る。グラスゴウのタバコ王の息子S・ミッチェル (Stephen Mitchell, 1820—1874) からの遺贈金約六万七〇〇〇ポンドをもとに設立され、一八七七年四月に開館した⁽¹⁾。

同館には、ダイアー家より、まず一九二二(大正十一)年から一九二四(大正十三)年にかけて、「日本、極東、スコットランド、グラスゴウなどに関する広範かつ貴重な摺物を含む」図書三七〇〇冊ならびに冊子二〇〇〇冊が寄贈された。一九二七(昭和二)年一〇月一〇日には、さらに「極東に関する図書八〇〇冊、日本の生活や産業活動を示す楽曲集および水彩画」が、追加して寄贈された⁽²⁾。しかし、現在は、館内に特設のコーナーがあるわけではない。寄贈品全部を一括して別置してあるのではなく、一点一点が架蔵番号にもとづいて並び変えられ、館内の書庫ならびに美術図書室 (Art Room) などに配架ないし収蔵されている。

それでも、「ヘンリー・ダイアー遺贈品」もしくは「ダイアー遺贈品」と称し、手書きの受贈目録⁽³⁾が作成されているから、その全貌と特色をうかがうことはできる。

同受贈目録ならびに筆者の現地調査などによると、ダイアー遺贈品には注目すべき点が認められる。第一は、大量の図書および冊子を含む点である。しかも、ダイアーの専攻領域である科学・技術の関係書にとどまらず、政治・教育・宗教・美術・地理など幅広い分野についても相当数含まれている。スコットランド、グラスゴウのほか、日本ならびに極東にかかわる図書や冊子もまた、含まれている。

日本関係書のなかには、和本がある。たとえば、田中菊雄編『呂波引紋帳』(求古堂、一八八一)、幸野棟嶺画『棟嶺百鳥画譜』(錦栄堂、一八八一—一八八七)、滝沢清編『唐草模様雛形』(求古堂、一八八一および一八八四)、渡辺省亭画『省亭花鳥画譜』(大倉孫兵衛、一八九〇—一八九二)、菊池武保編『前賢故実』(郁文舎、一九〇三)などである。これらの和本はすべてがダイアー持ち帰り品というわけではなく、その刊年からわかるように、ダイアーが一八八二(明治十五)年七月に離日した以降にコレクションに加わったものも含まれている。

そのほか、坪谷善四郎訳『工業進化論』(博文館、一八九六)、ならびにわが国の造船協会の機関誌『造船協会年報』の創刊号(一八九七年十二月)も、経路は明らかでないが、ダイアーの帰国後に加えられた。前者はダイアーの自著 *The Evolution of Industry* (1885) の邦訳書である。また後者の『造船協会年報』創刊号には、佐雙左仲(一八五二—一九〇五)による英語論文⁽⁴⁾が収録され、グラスゴウのアームストロング・ミッチェル社において建造された日本帝国海軍の戦艦八島の試験運航のことがとりあげられている。

ダイアー遺贈品の第二の注目点は、寄贈された図書類の大半は英書であるが、そのなかに日本関係の英書が少なからず著録されていることである。それら日本関係の英書は、大別して、来日外国人による著作および国際的に活動した日本人による著作から成る。前者としては、文部省学監D・マレー (David Murray)、初代駐日英国公使R・オールコック卿 (Sir Rutherford Alcock)、駐日英国公使館

ならびに同大使館の書記官であったF・O・アダムズ (Francis Otiswell Adams) およびJ・H・ガビンス (John Harrington Gubins) お雇い教師W・E・グリフィス (William Elliot Griffiths) 女性旅行家I・L・バード (Isabella Lucy Bird) などによる日本研究書がある。後者としては、森有礼、新渡戸稲造、菊池大麓、野口米、益田孝、岡倉覚三、松方正義らの著作があり、両者あわせて二一五点を数える。

第三に、図書および冊子のなかには、ダイアーの献辞が記された自著が含まれているし、寄贈票が見返しに貼られた例もある。たとえば、自著*Education and National Life* (1912) には「Presented by The Author」というダイアー自筆の献辞、ならびに一九二二年十月一〇日にダイアー自身から寄贈されたことを記すラベルが貼付されている。自著*Education and Industrial Training of Boys and Girls* (1913) のはあふには、「With the Compliments of the Author」という自筆の献辞、およびダイアー死去後の一九三五 (昭和一〇) 年五月三十一日受け入れというラベルが貼付されている。

ダイアー自筆といえば、かれがグラスゴウ大学の学生時代に受講したときのノート二冊も残されている。具体的には、一八七一年度にW・トムソン (William Thomson) 教授が担当し、毎週月・水・金曜日に開かれた「自然哲学」の受講ノートである。紙面には波動ならびに振動に関する公式が随所にみられるし、欄外には受講日 (一八七一年十一月十八日、一八七二年一月十七日、同年二月二日) などが書きこまれている¹³⁾。この「自然哲学」講義の概要は『一八

七一年度グラスゴウ大学要覧』に掲載されている¹⁴⁾が、本ノートは受講した学生による記録史料であるだけに貴重である。なお、ダイアーはこの「自然哲学」クラスの高等数学部門で、一等賞に輝いている¹⁵⁾。

2. 日本美術品

ダイアー遺贈品のもう一つの特徴は、日本美術品が含まれていることである。なかでも巻物と軸物が特筆される。

第一に、巻物としては「義経記」に依拠した大幅な巻軸三巻が注目される。絵師不明、制作者は「つちみかどなかなお」、制作は一七一〇 (宝永七) 年ころ、「貴重品 (Most Valuable)」などと記録されている¹⁶⁾。

第二に、軸物は七幅ある。①「雪のなかの常盤御前」と名づけられた掛軸。真冬の逃避行を余儀なくされた常盤が、一面の雪のなか、わら葺き屋根の軒下で牛若らをあやす様が描かれている。白い雪のなか、長い裾に描かれたあかるい朱と緑の模様があざやかに映え、落ち着いた色合いの一幅である¹⁷⁾。

②藤原安学画「社日祭悪神除萬民守護之尊像」。神道の二十八体の神を筆と墨で描いた淡彩画で、十九世紀後半の作と推定されている。③五月節句の幟の大和絵。幟のまねきについた鯉、鍾馗、五月幟を描いた掛絵である。「文久元年辛酉盛夏端午日應廣瀬節子雅君需六十翁主岳」という、詳細な年紀および絵師の款記が認められる。④竜の墨絵。養川法眼という落款はそなわっているが、制作年

は不詳。⑤刀工・政宗の碑銘を描いた掛軸。十九世紀後半の作で、石碑は東京の芝に建つとある。絵師不詳。⑥中世の京都で管弦に興じる貴族たちを描いた色鮮やかな掛絵。鶴仙という落款がみられる。制作年代不詳。⑦永真法眼（つまり狩野安信）の筆になる日本風景の墨絵。これは軸装されていない¹⁷⁾。

第三に、巻物および軸物のほかに、興味ある画帖類がある。その一つ、「紀元一六〇〇年前主要戦乱上の日本人像」とでも題する画帖は一〇〇点の絵から構成され、蛇腹のように折り畳まれている。それぞれの絵は縦長で、画面の上部には経歴などについての詞書が、下部には人物画が配されている。武士だけでなく貴族、僧侶も描かれており、それぞれの装束は艶やかな彩色である¹⁸⁾。これらの人物画のうち、「細川頼之」ならびに「北条泰時」を描いた二点は、それぞれ絵葉書¹⁹⁾に仕立てられ市販されている。

三、ヘンリー・ダイアー・コレクション展の構成と内容

1. 展示パネル

(一)

ミッチェル図書館にある「ダイアー遺贈品」の概要と特色は、おおよそ以上のとおりである。ヘンリー・ダイアー・コレクション展には同遺贈品のなかの何点かが選ばれて出品され、前記のように、展示パネル七枚（ポスター一枚を含む）および陳列ケース九台を使って展示された。注釈なしで鑑賞しにくいものには、キャプション

のほかに長めの解説文も付された。

このヘンリー・ダイアー・コレクション展の構成と内容について、まず展示パネルから紹介すると、つぎのとおりである。

第一のパネルでは、ダイアー・コレクション展の趣旨が説明された。絵および写真をカットに用いて、ダイアーの肖像、ダイアーの日本近代化への貢献、ダイアー遺贈品について紹介している。

まず、カットには、①ダイアー像（鉛筆画）²⁰⁾、②ダイアー著（坪谷善四郎訳）『工業進化論』（一八九六）の標題紙、それに③「長崎」および「富士山麓の須柱」の写真²¹⁾が用いられ、同パネルの左隅に配されている。いずれのカットも茶色がかった色調であり、しかも解説文の下地に五重の塔と梅の花が薄茶色でデザインされているので、古びた歴史資料としてのイメージを増幅させている。

解説文では、ダイアーの略歴、そのなかでも日本とのかかわりが大きくとりあげられている。まだグラスゴウ大学生のときに日本政府からの要請をうけ、日本最初の工科大学である工部大学の設立と運営を支援し、日本の近代化に寄与したということである。ダイアー著『大日本』から抜いた引用文を活用して、以下のように説明されている。

「ダイアーは工部大学の学生たちに献じた自著『大日本』のなかで、日本にむかう航海中は『計画された工科大学のカレンダー』『学課並諸規則』の草案作りにあてられた」と記した。東京に到着するとすぐに、この草案は日本政府に採用された。それから教師が集められたが、ダイアーはつぎのように書いてい

る。

『こうした有能な教師が、いずれも自分の仕事に熱心に取り組んでくれたおかげで、ほかのすべての条件がふさわしいかぎり、工部大学校は間違いなく成功を収めることになった。日本政府当局も、同校の成功を目指して全力を尽くしてくれた。開学から五年のうちに、堂々として立派な校舎が竣工し、教育を進めるうえで、もっとも進んだ設備がすべて用意された。』²⁸⁾

その工部大学校の履修課程の特色と成果はどうかというところ、

「工部大学校の履修課程は六年にわたった。ダイアーによれば、『単なる教科書中心の授業は二義的なものとみなされ、学生たちは製図室、実験室、実地の工学実習を通じて、理論と実践の関係について教わり、観察と独創的な思考の習慣とを身につける訓練を受けた』。そのような環境におかれて、学生たちは優秀であった。ダイアーが述べているように、『工部大学校で受けた教育の真価を示す何よりの証拠は、学生たちが卒業以降これまでにあげた輝かしい実績である。日本の工学関係の施設や産業現場で、かれらがその運営管理に積極的な役割を果たさなかつた例は少ない。』²⁹⁾

「ダイアーは日本に一〇年間とどまり、工部大学校がしっかりと軌道に乗ったのを見て、グラスゴウに帰るのに先立ち、自分の後任を指名した。感謝の印として、かれは明治天皇から当時お雇い外国人に授与される最高位の旭日章（勲三等）をさすけられたし、工部大学校の名誉校長にも任ぜられた。何年か後には、

勲二等瑞宝章を授与された。」

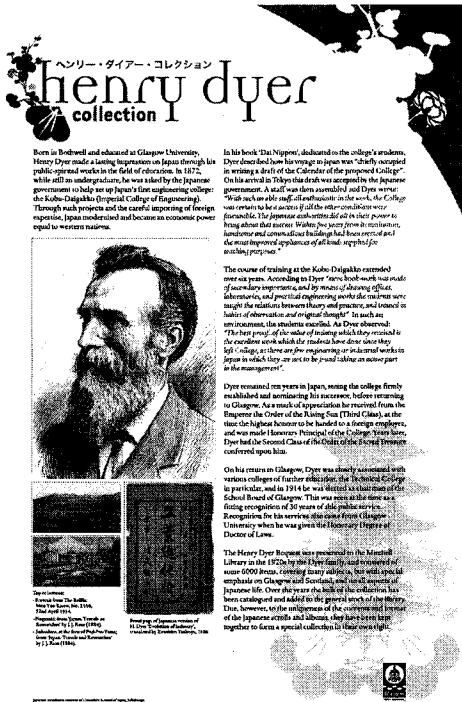
日本からグラスゴウに帰ってからのについては、

「ダイアーは継続教育を担当するいろいろな大学、とくに工科大学に深く関与した。一九一四年にグラスゴウ教育委員会の委員長に選出されたが、当時これは三〇年におよんだ公共奉仕活動にふさわしい報償だとみなされた。グラスゴウ大学からもかれの活動が評価され、名誉法学博士号が授与された。」

最後に、ヘンリー・ダイアー遺贈品について説明し、つぎのように位置づけている。

「このヘンリー・ダイアー遺贈品は、一九二〇年代にダイアー

図2. ヘンリー・ダイアー・コレクション展のパネル(1)



家から当ミツチエル図書館に贈呈されたもので、約六〇〇〇点からなる。数々の物品を含むが、とくにグラスゴウトスコットランド関係の品々、さらには日本のあらゆる生活場面に関する物品が多い。これまで何年もかけて本コレクションの大部分は目録化され、また当館の藏品に加えられた。しかし、日本の巻物ならびに画帖の内容と形態はユニークであるから、それらだけを集めて特別コレクションが形成されてきている。」

(二)

第二パネルのばあいは、①「雪のなかの常盤御前」、ならびに②「日本伝来の和楽器に興じる奏者たち」とでも題する掛軸が二幅²³⁾、示されている。両者は好対照であって、前者が雪の白さと常盤御前の衣服の緑色を基調にした、静寂で陰々たる詩情がただようのに対し、後者では琴、横笛、縦笛、鼓、笙、銅鑼を奏でる、紫、赤、黒、茶など色とりどりの衣服を着た六人六様のにぎやかな情景が、明るくユーモラスに描かれている。

解説文では、日本の絵画芸術の紹介がなされ、とくに浮世絵が注目されている。浮世絵の特徴と意義にふれたなかでは、日本美術品の題材ならびに様式の多様さに言及している。花鳥、歌舞伎役者、武将、美人、風景、民俗などを題材にした画帖、巻物、掛物といった形態のことである。すなわち、

「文字どおり浮世絵は『一般大衆むけの絵』のことをいう。この浮世絵の流派に関係のあった絵師たち、すなわち豊国、国貞、

国芳は、ほとんど例外なく、まさに庶民であった。かれらが描く絵の主題は広く知られた関心事であって、日常生活のなかのいろいろな場面や出来事であった。歴史上や伝説上の事件にとどまらず、歌舞伎役者の舞台場面や肖像画もお気にいりであった。この流派の晩年になると、風景、とりわけ山、川、その他田舎の地理上の名所に対する関心が進んだ。本来の芸術的価値とは別に、描かれた場面は後世の人びとに昔の風俗習慣への生き生きした洞察力を提供してきた。」

「ダイアー・コレクションのなかの摺物はさまざま形態であらわれ、花、鳥、歌舞伎役者、武将といった伝統的な画題を描いた絵を提供している。また、その摺物は、日本がなぜ色摺り芸術の世界におけるリーダーだと広く認められたかを示している。画帖だけでなく、巻物や掛物つまり掛軸もある。掛物という言葉は、物を掛けるという「かけ」と物品という意味の『もの』に由来している。」

第三パネルでは、『義経記』（十二世紀制作）の故事にちなんだ絵巻のなかの、絵図四面が採用されており、きらびやかで美しい。順に、①播磨と丹波の境・小野原に布陣する義経軍、②白茸毛の老馬を先頭に、鴨越の丘陵に急ぐ義経主従の軍勢、③屋島をめざして、阿波と讃岐の国境の大坂越にさしかかる義経軍、④平家との海戦に先立って軍議をこらす源氏の将兵、の絵図と推定される²⁶⁾。キャプションには「絵師、不詳。制作者、つちみかどなかなお。制作年、一七一〇年ころ。制作地、京都もしくは江戸」とある²⁶⁾。

第四パネルになると、①日本人の生活模様を描いた和本（二〇巻本）のなかの墨絵二点（江戸駿河町にある三井呉服店の全景、および錦袋園の店頭風景）、②渡辺省亭画『省亭花鳥画譜』全三巻（大倉孫兵衛、一八九〇—一八九二）から抜いた、鶯、梅、雄鶏の「色摺り花鳥画」三点、③「淡紅彩色の重ね摺り絵」という見出しで、幸野椋嶺画『椋嶺百鳥画譜』（錦栄堂、一八八一）から選んだ、木々にあそぶ啄木鳥と巧蹄鳥を描いた紅摺絵二点が、それぞれ配されている²⁰⁾。

第五パネルでは、①「武者絵、日本史上の名将群像」とでも題して、『紀元一六〇〇年前主要戦乱上の日本人像』（前出）から選んだ「平教経・平家の猛将」「源為義・源義家の子」「平清盛・平家の英雄」の武者絵三点と、②「京都貴族の日常生活（十二—十五世紀）」と有名なお伽話の墨絵画帖（絵師、刊年、刊行地不詳）より選んだ墨絵三点が、配されている²¹⁾。武者絵の艶やかな彩色は、観覧者を魅了したにちがいない。

最後の第六パネルは、おもに歌舞伎の摺物十一枚がずらりと並んで、壮観である。「画帖のなかの歌舞伎舞台と歌舞伎役者の肖像画。歌舞伎は人気の高い古典演劇で、十八世紀に中産階級の成長により最盛期をむかえた。」という説明文があり、つぎのような作品が収められている。①香蝶楼豊国および一勇斎豊国こと三代豊国作「六玉川景事」「調布玉川」「井出玉川」、②同じく三代豊国作「王子（旧都心近郊）の初午祭」、③一勇斎国芳作の歌舞伎役者絵、④舟上の一場面（絵師不詳）。このうち、①②は続き物、③は大首絵であ

り、既述の同展ポスターには①の続き物のうちの一人立の全身像「六玉川景事」が用いられている。本パネルには、歌舞伎絵ではないが、⑤一勇斎豊国作「伊勢大神宮（名古屋近郊）遷御の図」も含まれている²²⁾。優艶な画趣に魅了される。

図3. ヘンリー・ダイアー・コレクション展のパネル(2)



2. 陳列ケース

陳列ケースの方は、おおよそつぎのような構成と内容である。

まず、第一の陳列ケースには画帖類が収められ、日本を紹介する紙面がひろげられて展覧に供された。①日本の種々の生活模様と風

俗を主題とする画帖（二〇巻本）、②地主の邸宅の室内調度を描いた画帖（制作者、刊年、刊行地不詳）、③唐草模様の着物の図案集である滝沢清編『唐草模様雛形』（求古堂、一八八四）、の三種類である⁵⁰。

第二の陳列ケースでは、藤原安学による掛軸『社日祭恵神除萬民守護之尊像』が展示され、キャプションには「神道の二十八体の神を描く掛軸。水墨画」、十九世紀後半の作と推定、とある⁵¹。

第三ケースには、①『紀元一六〇〇年前主要戦乱上の日本人像』（絵師、刊年、刊行地不詳）とでも題する画帖から選ばれた二人の武者絵、②「京都貴族の日常生活（十二―十五世紀）」と有名なお伽話の墨絵画帖」。落款を持たず、絵師、刊年、刊行地は不詳、③「名家の兜と家門を描く小画帖」というキャプションのある田中菊雄編『伊呂波引絞帳』（求古堂、一八八一）が、展示された⁵²。画帖は小画面であるけれども数多くの場面をくりだして見せるので、日本を伝える格好の品として選ばれたのであろう。

第四ケースには、「名將の戦旗を描く掛軸」（絵師、刊年、刊行地不詳）⁵³ 一幅が収められた。

第五ケースのばあいは、既出の和本三点が展示された。①幸野棟嶺作・画『棟嶺百鳥画譜』（錦栄堂、一八八一）、②渡辺省亭作・画『省亭花鳥画譜』全三巻（大倉孫兵衛、一八九〇―一八九二）、③五〇〇名以上の歴史上の人物の姿態を描きわけた菊池武保編による画譜『前賢故実』全十八巻（刊年不詳）の三点である⁵⁴。画譜とは絵画を類集した画法書であって、色づかい、画面構成、モチーフの

様式、制作の技法などが図解されている。絵手本としての利用だけでなく、鑑賞用としても広く求められていた。

第六ケースになると、一勇斎国芳作の浮世絵が出展され、キャプションには「歌舞伎舞台および歌舞伎役者の画帖のなかの東京の旧都心浅草の夜」とある。「歌舞伎は一六〇〇年代初頭に起源をもつ日本伝統の演劇である。歌舞伎は歴史上の事件か日常生活を演じるが、おおいに様式化されている。演技、舞踏、音楽を組み合わせて、空想的で豪華壮大な舞台を演出するのである。」という解説文も添えられた⁵⁵。

最後に、第七・第八・第九の陳列ケースを使って、「義経物語の名場面を描いた絵巻」が出展された⁵⁶。「義経は十二世紀以来の民間伝承上の人物で、数々の偉業は絵画のみならず物語や演劇の主題にもなっている。」と説明されている。

3. ダイアー遺贈品との関連

ヘンリー・ダイアー・コレクション展は、上述のように、展示パネル七枚および陳列ケース九台から構成された。展示パネルには三十四点の絵図が収載され、陳列ケースには計十三点（三台の陳列ケースで展示された義経物語は一点と数える）の品々が展示されている。

これらの品々は、確かにヘンリー・ダイアー遺贈品なのか。異国での展覧であるだけに、検討すべき課題となるであろう。

ちなみに、陳列ケースの十三点の品々について、『受贈目録』の

表 3. 展示品の説明文と『受贈目録』記録

	陳列ケースの説明文	“The Mitchell Library, Location Book” における記録
1	<p>○Scenes from a 20 volume printed set depicting Japan and Japanese life</p> <p>○Album showing typical interior furnishings of a Japanese landowner's house. Author, date and place: unknown.</p> <p>○Arabesque patterns for kimonos. Editor: Kiyoshi Takizawa. Date: 1884. Place: Tokyo.</p>	<p>○Scenes of Japan and Japanese way of life, Vols. 1-20. n.d. (890169-890188)</p> <p>○Furniture of a house. n.d. (890156)</p> <p>○</p>
2	<p>○Kakimono hanging scroll of 28 Shinto gods. Brush and ink wash. Artist: Agama Fujiwara. Date: probably late 19th century.</p>	<p>○Fujiwara (Agama), Sketch of Gods. n.d. (890112)</p>
3	<p>○Two plates of generals from “Japanese Generals in Notable Civil Wars before 1600”. Artist, date and place: unknown.</p> <p>○Album of Indian ink drawings on daily life of aristocrats in Kyoto (12th – 15th century) and some famous fairy tales. Artist, date and place: unknown.</p> <p>○Small album showing crests and symbols of clans and families. Editor: Kikuo Tanaka. Date: 1881. Place: Tokyo.</p>	<p>○Japanese generals before 1600. n.d. (890104)</p> <p>○Daily life of aristocrats in Kyoto. n.d. (890105)</p> <p>○</p>
4	<p>○Kakimono hanging scroll depicting the flags of a famous general. Artists, date and place: unknown.</p>	<p>○Hanging scroll of war flags of a clan general. n.d. (890116)</p>
5	<p>○“Drawings of a Hundred Birds”. Author/Artist: Haurei Kono (usually read as Bairei Kono). Date: 1881. Place: Tokyo.</p> <p>○Colour bird and flower scenes from a 3 volume set “Drawings of Flowers with Birds”. Author/Artist: Shotei Watanabe (usually read as Seitei Watanabe). Date: 1890/91. Place: Tokyo.</p> <p>○From an 18 volume set entitled “Story of Wise People of Ancient Times”. Editor: Takeyasu Kikuchi. Date: unknown. Place: Tokyo.</p>	<p>○Kono (Hanrei), Drawings of one hundred birds. Vols.3. 1881. (890144-890146)</p> <p>○Watanabe (Shotei), Drawings of flowers with birds, vols.3. [1890] (890147-890149)</p> <p>○Kikuchi (Takeyasu), Story of wise people. Vol.1, Part.1~Vol.10, Part.2, n.d. (890124-890143)</p>
6	<p>○Night in Asakusa, the old city center of Tokyo, from an album of scenes and portraits of Kabuki actors. Artist: Ichiyusai Kuniyoshi.</p>	<p>○Book of drawings by various artists. n.d. (890123) 7, Night in Asakusa (old city centre of tokyo)*</p>
7	<p>○Hand scroll depicting part of Prince Yoshitsune's history. Artist: unknown. Writer: Nakanao Tsuchimikado. Date: c.1710. Place: Kyoto or Edo.</p>	<p>○Tsuchimikado (Nakanao), History of “Gikei-ki”. Scroll 1~Scroll 3, [c1710] (890108-890110)</p>
8	<p>○Hand scroll depicting another story relating to Prince Yoshitsune. Artist: not known. Writer: Nakanao Tsuchimikado. Date: c.1710. Place: Kyoto or Edo.</p>	
9	<p>○Hand scroll showing a different story relating to Prince Yoshitsune. Artist: not known. Writer: Nakanao Tsuchimikado. Date: c.1710. Place: Kyoto or Edo.</p>	

なかに対応する記録を探つてみると、別掲の表3のようになる。受贈時の記録と本展覧会におけるキャプションあるいは説明文とを比べてみると、展覧にさいして詳しい解説が用意されていることが分かる。絵師・制作者の名前、題材、図様、款記、巻数の表示、画面構成などについても描き出しており、調査研究の蓄積が確かに認められる。(展示パネルにおける図絵についての検討は省略。)

四・パンフレット『日本の巻物と画帖、ミツチエル図書館の名品』

ヘンリー・ダイアー・コレクション展では「図録」は用意されなかった。けれども、同展の開催を機に、パンフレットがあらたに制作されたことが特筆される。『日本の巻物と画帖、ミツチエル図書館の名品』^⑧と題する、二折(全四頁)のパンフレットである。

表紙には、黄色地に鎌倉幕府の執権北条泰時(一一八三—一二四二)を描いた武者絵が採用された。前出の画帖「紀元一六〇〇年前主要戦乱上の日本人像」のなかの一点であって、絵葉書に仕立てられて市販されてもおり^⑨、なじみの絵柄である。赤紫色の鎧兜に身をつつみ、弓矢を右手に携えた北条泰時のダイナミックなフォルムとあざやかな色彩があいまって、迫力がある。

本文には歌舞伎役者絵が三点配されている。そのうちの二点は、香蝶楼豊国および一勇齋豊国こと三代豊国作の役者絵「六玉川景事」および「井出玉川」であって、これはヘンリー・ダイアー・コレク

図4. パンフレット『日本の巻物と画帖、ミツチエル図書館の名品』の表紙



ション展の第六展示パネルの図版と同じである。他の一点は、武家の屋敷の女中を描いた風俗画である(画題、絵師不詳)。

本文の説明は、「ヘンリー・ダイアー遺贈品」と「日本の摺物」の二部から構成されている。前半の「ヘンリー・ダイアー遺贈品」では、まず日英両国の教育におけるダイアーの活躍に言及し、そのあとダイアー遺贈品についての説明がつづく。その内容は、前出の第一展示パネルの説明文とほぼ同文である。

後半の「日本の摺物」では、摺物の画題ならびに形態の多彩さについて触れ、「日本はカラー印刷技術における世界のリーダーであると広く認められている」と紹介しているが、これも前出の第二展示パネルの説明文とほぼ同文である。したがって、このパンフレット

トはヘンリー・ダイアー・コレクション展と連動して作成されたと考えられる。

五. まとめ

ヘンリー・ダイアー・コレクション展は、二〇〇五年五月十一日から六月三〇日まで、ダイアーの郷里であるグラスゴウ（スコットランド）のミッチェル図書館で開かれた。工部大学校のお雇い教師であったヘンリー・ダイアーの死後、ダイアー家から同館に贈呈された日本関係資料の一部が展覧に供されたものである。

それほど大掛かりではなく、同館五階のフロアの一角に展示パネル七枚と陳列ケース九台を配置しただけの、こじんまりした展覧会であったけれども、日英交流史上、下記のような特色と意義が認められる。

第一に、同展覧会では、ダイアー遺贈品のなかから選ばれた日本関係の和本、画帖、巻物、軸物が展示された。襖絵や屏風絵という大画面は一双も調進されなかったし、額絵（油彩画）が壁面を飾ることもなく、したがって日本美術の様式の多彩さを示すまでには至らなかった。また、『図録』は制作されず、しかもパネルによる図絵の展示という形も含まれていたのだけれども、日本の故事や物語に取材したり、歴史人物の姿態、庶民の姿、四季折々の花鳥・風景・庶民風俗という多岐にわたる題材の作品が展示されたので、観覧者には日本文化への関心を一段と醸成したことであろう。ささや

かながら意義ある展覧会であったと思われる。

第二に、ダイアー遺贈品にもとづくこの展覧会は、日英交流の歴史の所産、とりわけ日本・グラスゴウ間の歴史的関係を示す展覧会として注目される。

同じグラスゴウにあるケルヴィングローブ美術館・博物館 (Kelvingrove Art Gallery and Museum) には、明治政府から一八七八（明治十一年十一月二十五日に贈呈された一一五〇点にのぼる日本美術工芸品が収蔵され、公開展示されている^⑧のに対して、本展覧会の展示品は一人のお雇い教師を介して遠い異国の地に伝来した日本関係資料である。それらの藏品が、「二〇〇五年日・EU市民交流年」におけるイベントの一環として展覧された、それもグラスゴウ市の主催のもとで展覧に供されたということは特筆される。

第三に、ダイアー自身の日本への強烈な関心が明白にうかがわれる点で重要である。このような日本関心がダイアーの本格的な日本研究につながり、『大日本、東洋の英国』（一九〇四）や『国際政治のなかの日本』（一九〇九）^⑨といった大著に結実していったのであろうと考えられる。

なお、ヘンリー・ダイアー・コレクション展の開催を機に、パンフレットがあらたに制作され、『日本の巻物と画帖、ミッチェル図書館の名品』と名づけられたが、その副題に「ミッチェル図書館の名品」と位置づけられていることがとりわけ注目される。

「ヘンリー・ダイアー遺贈品」と「日本の摺物」の二部から構成されたその案内文は、本展覧会における展示パネルの説明文とほぼ

同じであり、また表紙ならびに本文のカットに使用された武者絵ならびに歌舞伎役者絵は、これも本展覧会における展示品が用いられている。

〔注〕

(1) 三好信浩『タイアールの日本』福村出版、一九八九、その他。

(2) Foster, J. & Sheppard, J. eds, *British Archives, A Guide to Archive Resources in the United Kingdom*, Palgrave, Basingstoke & N. Y., 2002, 4th ed, p.174. 同書は英国アーカイブズについてをもっとも網羅的であり、一二三三館のアーカイブズ情報を収録している。

なお、Lovell, A., *Art for Industry, the Glasgow Japan Exchange of 1878* (Glasgow Museum, 1991, p.12) は、ミッチェル図書館にタイアール寄贈品として図書ならびに巻物三軸と掛物六軸が収蔵されているとある。Pearse, B., *Companion to Japanese, Britain and Ireland*, In Print Publishing Ltd, Brighton, 1991, pp.206, 210, 214, 216-217 同様。

(3) 具体的には、グラスゴウの①ミッチェル図書館、②ケルヴィングループ美術館・博物館、③グラスゴウ大学、④ストラスカライド大学、およびエディンバラの⑤エディンバラ市中央図書館。拙稿「日英交流の遺産タイアール・コレクション研究」日本英学史学会『英学史研究』第三八号(二〇〇五年一月)三九―五七頁参照。

(4) 具体的には、別掲の表1のとおり。

(5) 具体的には、別掲の表2のとおり。

(6) 本交流年事業については、実務を担当されたエディンバラ日本国総領事館の堀田伸之領事より多数の資料の提供を受けた。記して多謝する。ほかに、外務省のホームページ「MOFA: Report on the "2005 EU-Japan Year of People to People Exchanges"」および「外務省：二〇〇五年日・EU市民交流年報告書」参照。
<http://globalwarming.mofa.go.jp/region/europe/eu/report>より。

(7) 本節は、拙稿「日英交流の遺産タイアール・コレクション研究」前出、四〇―四四頁、と重複するところがある。

(8) Boase, F., *Modern English Biography*, Frank Cass, London, 1965, p.906. Foreman, C., *Did You Know?*, Glasgow City Libraries and Archives, Glasgow, 1996, pp.32-33. 所在地は North Street, Glasgow G3 7DN, Scotland.

(9) *Corporation Minute*, No.6 (7 January 1924) p.503, No.28 (31 October 1927) p.2567.

(10) "Dyer Collection, The Mitchell Library Location Book 429 251-429950", in *43 Donation Book 420001-430000*, 44-46 "Dyer Collection, The Mitchell Library Location Book 470001-474432", in *48 Donation Book 470001-480000*. "Dyer Bequest, The Mitchell Library Location Book 01-95", in 48

Donation Book 890101-890151. 寄贈図書および冊子は一九六〇年から六九年までの間、および一九七三年ころ、目録作成が試みられた。また、多数の複本は廃棄された。

- (11) Sasow, S., "Results of Trials and Experiments Made on H. I. M. First Class Battleship "Yashima", ["造船協会年報] 第一号 (明治三〇年十二月) 二五—二八頁および付図四枚。
 (12) 受講ノートの表紙には、それぞれこのように記された。

「Higher Mathematical Natural Philosophy Class,
 Glasgow University Session 1871-72

Henry Dyer

449 St. Vincent Street

Glasgow

「Waves and Vibrations extra-work for Higher Natural

Philosophy Class,

Glasgow University Session 1871-72

Henry Dyer

449 St. Vincent Street

Glasgow

- (13) *The Glasgow University Calendar for the Year 1871-72*, James Maclehose, Glasgow, 1871, pp. 36-37.

- (14) *The Glasgow University Calendar for the Year 1872-73*, James Maclehose, Glasgow, 1872, p. 168.

- (15) 本絵巻に添えられた説明文には、このように記された。

「Picture Scrolls, based on the history of "Gikei-ki" (History of Prince Yoshitsune) (12c). artist: not known. writer: Nakanao Tsuchimikado. date: c1710. place: Kyoto or Edo. Most valuable.」

また、タートー遺贈品記録 (*Henry Dyer Bequest Japanese Items [2]*) に、このようにある。

「Three picture scrolls based on the history of "Gikei-ki" (the history of Prince Yoshitsune) who lived about the 12th century. Place of publication: Kyoto or Edo. c.1710. Considered to be the most valuable work in the collection.」

- (16) タートー遺贈品記録 (*Henry Dyer Bequest Japanese Items [2]*) に、このようにある。

「Wall hanging. Drawing based on a famous story about Prince Yoshitsune, a baby in his mother's cloth was escaping from their enemies. No place of publication given. n. d.」. また、本巻の裏面に「Picture of Tokiwagozen in the snow. Painted by Kaki at the age of 45」の題がある。

- (17) タートー遺贈品記録 (*Henry Dyer Bequest Japanese Items, 44*) *Henry Dyer Bequest Japanese Items [2]* に、このようにある。

④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒

「Wall hanging showing a sketch of the Gods (Shintozism)」

⑳ 「Hanging scroll which shows the war flags of a general of a particular clan」

- ④ 「Wall hanging」
George Waterston & Sons Ltd.」 ㄅㄆㄇ。
- ⑤ 「Wall hanging which shows a copy of a stone monument of Masamune, a famous sword-maker. This used to stand in Shika, Tokyo」
- ⑥ 「Indian ink drawings of daily life of the aristocrats in Kyoto in the 12th and 15th centuries. It also includes some famous fairy tales」
- ⑦ 「Indian ink drawing which shows a typical setting in Japanese paintings」
- ⑧ タイマー遺贈品記録 (*Henry Dyer Bequest Japanese Items*)
「はは、ひのちのたまひ。」
「Japanese generals in notable civil wars before 1600. No place of publication given. n.d.」
- ⑨ の画帖 (ミツチエル図書館蔵、登録番号八九〇一四) は縦三
四・五センチ、横二一・五センチ。おもつ面は五三點、裏面は
四七點の絵からなる。ただし、制作者および刊年是不詳。
(19) 絵葉書の裏の記述に「[Hosokawa Yoriyuki (d.1592),
Deputy of Yoshimitsu (1358-1408), Ashikaga Shogun. (Dyer
Collection) © 1984 Glasgow District Libraries, North Street,
Glasgow G3. Printed in Scotland by George Waterston & Sons
Ltd.] ㄆㄇㄉ」 「Hôjô Yasutoki, Regent 1224-42, Kamakura
government. (Dyer Collection) © 1984 Glasgow District
Libraries, North Street, Glasgow G3. Printed in Scotland by
- (20) *The Bailei; Men You Know*, VOLLXXXIV, No.2166 (22 April
1914) p.3, 46.
- (21) Rein, J. J., *Japan: Travels and Researches, Undertaken at the
Cost of the Prussian Government*. tr. from the German, N. Y.,
A.C.Arnstrong, 1884 (原著者 Rein, J. J., *Japan, nach Reisen
und Studien*, Leipzig, W. Engelmann, 1881)。
- (22) 文中のタイマー「大日本」からの引用文は「Dyer, H., *Dai
Nippon, The Britain of the East*, London, Blakie and Son,
1904, p.2, pp.4-5. 訳書なら、平野勇夫訳「大日本」実業之日本
社、一九九九、三三三頁、三六頁。ただし、本稿での訳文は同書
よりではない。翻訳にあらうして、松村好浩先生(姫路獨協大
学名誉教授)より、指導をいただいた。
- (23) 文中のタイマー「大日本」からの引用文は「Dyer, H., *ibid.*,
p.5, p.6. 平野勇夫訳、同上、三六頁、三七頁。ただし、本稿で
の訳文は同書とおりではない。翻訳にあらうして、松村好浩先生
(姫路獨協大学名誉教授)より、指導をいただいた。
- (24) ① 「*Kakemono* or hanging scroll picture of Tokiwa-gozen in
the snow.」
② 「*Kakemono* or hanging scroll picture of musicians with
traditional Japanese instruments.」
- (25) 小松茂美編『平家物語絵巻』巻九(中央公論社、一九九一)、
巻十一(中央公論社、一九九二)ほか参照。

- (28) [Hand scrolls based on the history of 'Gikeiki' (History of Prince Yoshitsune) 12th century. Artist: unknown. Writer: Nakanao Tsuchimikado. Date: c.1710. Place: Kyoto or Edo.]
- (29) ⊖ [Black and white scenes from a 20 volume set depicting Japan and the Japanese way of life.]
- ⊕ [Colour bird and flower Scenes, or Kacho-ga, from a 3 volume set 'Drawings of Flowers with Birds'. Author/Artist: Shotei Watanabe, usually read as Seitei Watanabe. The book itself is commonly referred to by its Japanese name 'Seitei Kacho Gofu'. Date:1890/91. Place:Tokyo.]
- ⊕ [Paintings, known as benzui-e, printed in bi or tri-chrome with a pale pink, from 'Drawings of a Hundred Birds'. Author/Artist: Haurai Kono (usually read as Bairai Kono). Date:1881. Place:Tokyo.]
- (30) ⊖ [Paintings, called musha-e, of historically important warriors from 'Japanese Generals in Notable Civil Wars before 1600'. Artist, date and place: unknown.
- Taira no Noritsune, brave warrior of Heike family.
- Minamoto no Tameyoshi, a son of Yoshiye.
- Taira no Kiyomori, a famous hero of Heike family.]
- ⊕ [Indian ink drawings from an album depicting the daily life of Kyoto aristocrats during the 12th to 15th centuries and some famous fairy tales. Artist, date and place:
- unknown.]
- (31) ⊖ [The river Tamagawa. Artist: Kaohoro Toyokuni and Ichiyusai Toyokuni.]
- ⊕ [Festival in Oji, near old city centre. Artist: Ichiyusai Toyokuni.]
- ⊕ [Portraits, known as yakusha-e, of Kabuki actors. Artist: Ichiyusai Kuniyoshi.]
- ⊕ [Scene on ship. Artist: unknown.]
- ⊕ [Ceremony at Ise Shrine (near Nagoya). Artist: Ichiyusai Toyokuni.]
- (32) ⊖ [Scenes from a 20 volume printed set depicting Japan and Japanese life.]
- ⊕ [Album showing typical interior furnishings of a Japanese landowner's house. Author, date and place: unknown.]
- ⊕ [Arabesque patterns for kimonos. Editor:Kiyoshi Takizawa. Date: 1884. Place:Tokyo.]
- (33) [Kakimono hanging scroll of 28 Shinto gods. Brush and ink wash. Artist: Agama Fujiwara. Date: probably late 19th century.]
- (34) ⊖ [Two plates of generals from "Japanese Generals in Notable Civil Wars before 1600". Artist, date and place: unknown.]
- ⊕ [Album of Indian ink drawings on daily life of aristocrats

in Kyoto (12th–15th century) and some famous fairy tales.
Artist, date and place: unknown.]

② [Small album showing crests and symbols of clans and families. Editor: Kikuo Tanaka. Date: 1881. Place: Tokyo.]

(33) [Kakimono hanging scroll depicting the flags of a famous general. Artists, date and place: unknown.]

(34) ① [“Drawings of a Hundred Birds”. Author/Artist: Haurei Kono (usually read as Bairei Kono). Date: 1881. Place : Tokyo.]

② [Colour bird and flower scenes from a 3 volume set “Drawings of Flowers with Birds”. Author/Artist: Shotai Watanabe (usually read as Seitei Watanabe). Date: 1890/91. Place: Tokyo.]

③ [From an 18 volume set entitled “Story of Wise People of Ancient Times”. Editor: Takeyasu Kikuchi. Date: unknown. Place: Tokyo.]

(35) [Night in Asakusa, the old city center of Tokyo, from an album of scenes and portraits of Kabuki actors. Artist: Ichiyusai Kuniyoshi.]

(36) [Hand scroll depicting part of Prince Yoshitsune's history. Artist: unknown. Writer: Nakanao Tsuchimikado. Date: c.1710. Place: Kyoto or Edo.]

[Hand scroll depicting another story relating to Prince

Yoshitsune. Artist: not known. Writer: Nakanao Tsuchimikado. Date: c.1710. Place: Kyoto or Edo.] [Hand scroll showing a different story relating to Prince Yoshitsune. Artist: not known. Writer: Nakanao Tsuchimikado. Date: c.1710. Place: Kyoto or Edo.]

(37) *Japanese Scrolls and Illustrated Albums, Treasures from the Mitchell.*

(38) 絵葉書の裏の記述には「Hosokawa Yoriyuki (d.1392), Deputy of Yoshimitsu (1358-1408), Ashikaga Shogun. (Dyer Collection) ©1984」云々。前出の注(32)に同ク。

(39) 拙稿「日英交流の遺産タイアー・コレクション研究」前出、四五頁。グラスノウ市からは返礼として西洋絵画ならびに工業標本が寄贈され、帝室博物館(現在の東京国立博物館)に収蔵された。小林頼子「東京国立博物館所蔵の西洋絵画——グラスノウ博物館寄贈に係る二三点——」『東京純心女子短期大学紀要』第二号(一九八八)六一—七六頁、参照。

(40) Dyer, H., *Dai Nippon, The Britain of the East*, op. cit.. Do, *Japan in World Politics, a Study in International Dynamics*, Blackie & Son, London, 1909.

(かへん しやうしん) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科)

“Henry Dyer Collection Exhibition” in Glasgow

—From Bequest of Henry Dyer, Principal of the Imperial College of Engineering, Tokyo—

Shoji KATOH

(1)

An exhibition entitled “Henry Dyer Collection” was held at Mitchell Library in Glasgow (Scotland), Dyer’s hometown, from May 11 to June 30, 2005. It was one of many events under “The 2005 EU-Japan Year of People-to-People Exchanges” which was celebrated in Japan and 25 EU Member States throughout the year 2005 to develop exchanges, contact and understanding between people in Japan and the European Union.

After the death of Henry Dyer (1848-1918), who was a hired teacher at the Imperial College of Engineering, Tokyo (predecessor of the Engineering Department of University of Tokyo), the Dyer family donated his artifacts relating mainly to Japan to the Library. This exhibition placed some of these materials on display.

The exhibition was not a large-scale one, however, it was a rather small exhibition, where nine glass cabinets and seven large boards were arranged in a section on the fifth floor of the Library.

(2)

In this exhibition, various books printed in Japan, albums,

hanging scrolls, hand scrolls and other materials related to Japan were selected from Dyer’s bequest, and displayed. There were no pairs of large folding screens set up, and no framed oil paintings decorated the walls. Nonetheless, even though it was a small-scale exhibition for which no pictorial catalogue was produced, it must have quenched the thirst of visitors interested in Japanese culture.

It presented a collection of materials related to Japanese historical facts and folklore, displaying works on a variety of subjects, such as figures of historically important people, pictures and images of common people, flowers, birds, sceneries and images of the lives of common people in each season (e.g., a hand scroll telling the “Prince Yoshitsune History”, or Bairai Kono’s *Drawings of a Hundred Birds*.) It also must have fostered interest in Japan. In spite of its humble outlook, it is considered to have been a significant exhibition.

This exhibition is also important because it is a historical artifact of exchange between UK and Japan, and because it clearly shows an ardent interest of Dyer himself in Japan.

(3)

Furthermore, it is noteworthy that a new pamphlet was created as a consequence of the Henry Dyer Collection exhibition. It is a twofold pamphlet entitled “Japanese Scrolls and Illustrated Albums: Treasures from the Mitchell” (four pages in total).

On the cover, a picture of warriors, which depicts Yasutoki Hojo, a regent during the Kamakura Shogunate, is arranged beautifully. It consists of two sections, "Henry Dyer Bequest" and "Japanese Prints," and the descriptive text is virtually identical to the text printed on the boards used in the exhibition.